山都町清和地区義務教育学校　基本構想の流れ/目次構成案

資料４

第１章

社会的・時代的背景

- ○ 国際競争力の低下
- ○ グローバル化の進展
- ○ 少子高齢化
- ○ SDGｓの要請
- ○ コロナ禍、自然災害
- ○ 新学習指導要領
- ○ 大学全入化（受験競争の終焉）
- ○ ICT 化の加速、AI の発達
- ○ 子供の成長の加速化
- ○ 英語教育、プログラミング教育

第２章

現状の課題

- ○ 学校施設の老朽化
- ○ 多様な学習形態への支障
- ○ バリアフリー化の要請
- ○ 課題を抱えた子どもの居場所不足
- ○ 地域からの参加が難しい
- ○ 全国学力テスト結果の不振
- ○ 生徒コミュニケーション力の不足

保護者・児童生徒・教職員アンケート

山都町の現況（背景）

- ○ 九州中央部という立地
- ○ 急速な高齢化、限界集落
- ○ 生産年齢人口の減少
- ○ 若年者の町外流出
- ○ 広大な全町面積
- ○ １学級の児童生徒数が少ない
- ○ 複式学級
- ○ 人間関係の構築が苦手（５月病）
- ○ ALT などの学校兼任
- ○ 先生が集まらない

2022 年

2027 年

清和地区
義務教育学校
の開設

第３章

未来の社会

- ○ Society5.0 の到来
- ○ さらなる ICT・AI の発達
- ○ 働き方の変化（リモートワーク）
- ○ 交通手段の変化
- ○ スマート農業の進展

山都町の未来（背景）

- ○ 九州中央自動車道開通
- ○ 交流人口の増加

- ○ 義務教育学校の（独自の）教育成果
- ○ 学校職員の高い教育力
- ○ 地域の学校参加（協力・高い関心）

2036 年

目指す学校像

- ○ 学校施設の新築
- ○ 多様な学習形態の実現
- ○ バリアフリー化の実現
- ○ 課題を抱えた子どもの居場所確保
- ○ 地域からの参加の実現
- ○ 全国学力テスト結果の向上
- ○ 生徒コミュニケーション力の獲得

2060 年

2060 年の清和を生きる人々の姿

- ■ 自ら考え、未来を切り開いていく
- ■ 様々な他者と協力・協働関係を築ける
- ■ 自身と地域を信頼し大切にする
- ■ 新しい知識・技術を積極的に活用する

第４章

今後の課題①（ソフト面）

- ● 学年の区切りは？
- ● カリキュラムは？
- ● クラス担任制と教科担任制？
- ● 制服・校則は？

今後の課題②（ハード面）

- ● 最適立地はどこか？
- ● エリア構成（ゾーニング）は？
- ● ラーニングコア、メディアセンターは？
- ● 地域の人のための施設は？